



支え合い つながり 次の世代へ

八幡振興計画



令和8年4月

八幡自治振興区

八幡のいま

アンケート結果から読み取れる「八幡の現状」「みなさんの思い」をまとめました

① 人口減少と高齢化が進む中での“暮らしの不安”

八幡では高齢化が進み、令和7年10月現在で八幡全体のうち65歳以上の人が占める割合（高齢化率）は58.0%となっています。

その中で多くの方が、

- 農地・山林の維持管理 126人（44.8%）
- 有害鳥獣被害 121人（43.1%）
- 自分の健康・介護 85人（30.2%）
- 家族の健康・介護 74人（26.3%）
- 地域の役や行事の負担 66人（23.5%）

といった「日常生活の維持」に強い不安を抱えています。

また、

- 車の運転ができなくなることへの不安 211人（74.0%）

が圧倒的で、移動手段の確保が将来の大きな課題として浮かび上がっています。

② 移動手段の確保と“暮らし続けられる地域”への期待

日常の移動は 自家用車が232人（82.6%）と圧倒的で、車に依存した生活構造が明確です。

そのため、

- 運転できなくなった後の移動手段の不安
- 買い物・通院のアクセスの弱さ

が将来の大きな課題として浮かび上がっています。

自由意見では、

- 移動支援
- 若い世代が参加しやすい場づくり
- 空き家活用
- 地域資源（飯山など）の活用

など、「住み続けられる地域」への前向きな提案も多く見られました。

③ 情報は届いているが、若い世代とのつながりは弱い

八幡自治振報は「いつも読んでいる」が 65% と、紙媒体の情報はよく届いています。一方で、インターネットやSNSで情報を得ている人は10%未満と少なく、若い世代ほど地域情報に触れる機会が限られている状況です。

地域活動への参加意欲は

- 関心はあるが、積極的には参加していない 137人（49.1%）
- 関心があり、積極的に参加している 78人（28.0%）

と、関心はあるものの行動につながりにくい層が多く、特に若い世代の参加が課題です。

④ 地域活動は“つながり”を大切にする一方、負担感も増大

参加理由のトップは

- 人との付き合いは大事にしたい 130人（46.6%）
- 知り合いや仲間が増える 60人（21.5%）

と、八幡らしい地域の“つながり”を重視する声が強に残っています。

しかし否定的な理由として

- 体力・健康への不安 60人（21.5%）
- 仕事・学業で忙しい 37人（13.3%）
- 活動に関心がない 18人（6.5%）

など、負担感や生活との両立の難しさが参加を妨げています。

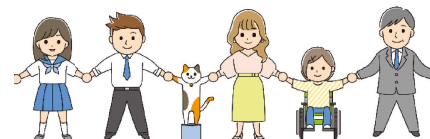
行事や役の負担に関する自由意見も多く、「人口減少の中で今の形を続けるのは難しい」という声が複数寄せられています。

これからの八幡地域は 『支え合い、つながり、



1

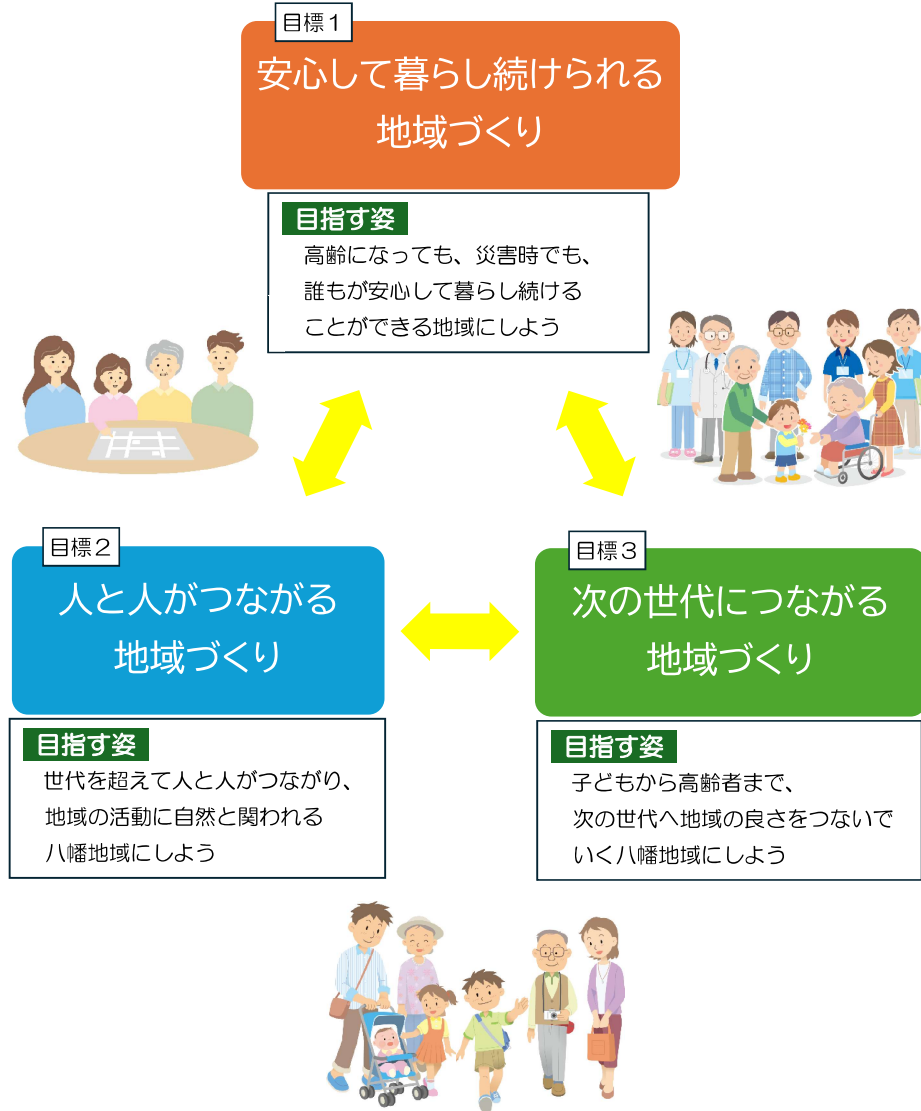
次の世代へつなぐ八幡地域』 に



2

八幡の未来デザイン

みなさんの思いを生かしていくため、3つの目標と目指す姿をまとめました



目指す姿に一步步近づけるために…

【目標1】 安心して暮らし続けられる地域づくり	【目標2】 人と人がつながる地域づくり	【目標3】 次の世代につながる地域づくり
取り組みの方向性	取り組みの方向性	取り組みの方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 移動手段の確保と多様化 ● 日常生活の支援、見守りの仕組みづくり ● 高齢者の生活不安を減らす相談体制の整備 ● 防犯・防災活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動へ参加しやすい仕組みづくり ● 多世代交流の場づくり ● 地域行事や交流活動の活性化 ● 行事・活動の負担軽減と役割の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代の支援 ● 若い世代が参加しやすい仕組みづくり ● 地域文化や活動の継承 ● 地域の魅力発信

5年後、10年後の八幡地域は“こうなっていてほしい”

<ul style="list-style-type: none"> ✿ 地域で声を掛け合う関係がある ✿ 一人暮らしの高齢者も安心して生活できている ✿ 災害時に助け合える関係が築かれている 	<ul style="list-style-type: none"> ✿ 地域行事に自然と人が集まっている ✿ 若い世代も地域活動に関わっている ✿ 顔の見える関係がある 	<ul style="list-style-type: none"> ✿ 子どもたちが地域に見守られて育っている ✿ 若い世代が地域に関わっている ✿ 地域の行事や文化が次の世代に受け継がれている
---	--	---

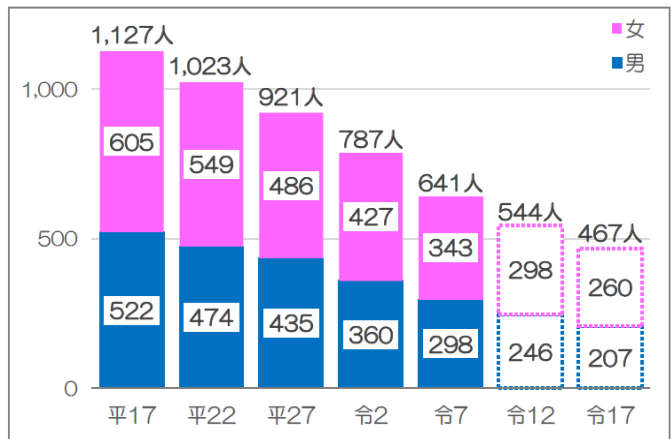


[参考資料] 人口からみる八幡のすがた

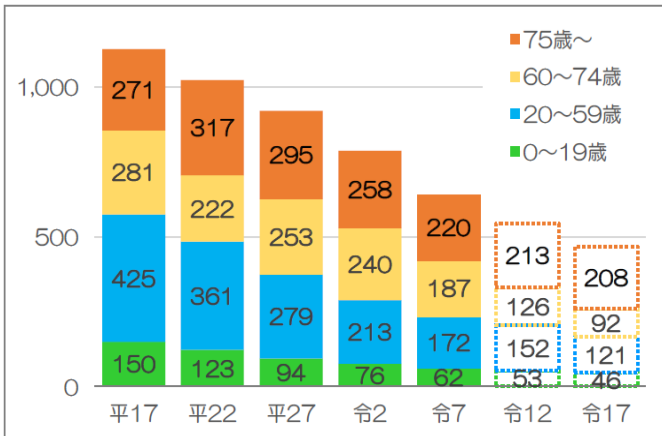
振興区が発足した平成17年～現在までと、5年後・10年後の推計値をグラフにしました。

人口減少、少子高齢化がすすむとともに、下の年齢（4区部）別では、20歳までの若年世代の減少以上に、地域の担い手・働き手である20～59歳の現役世代の減少がもっとも大きくなっています。

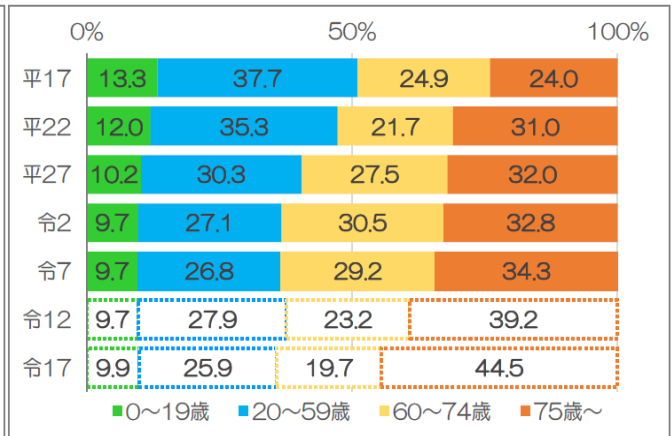
■男女別 (各年3月末現在)



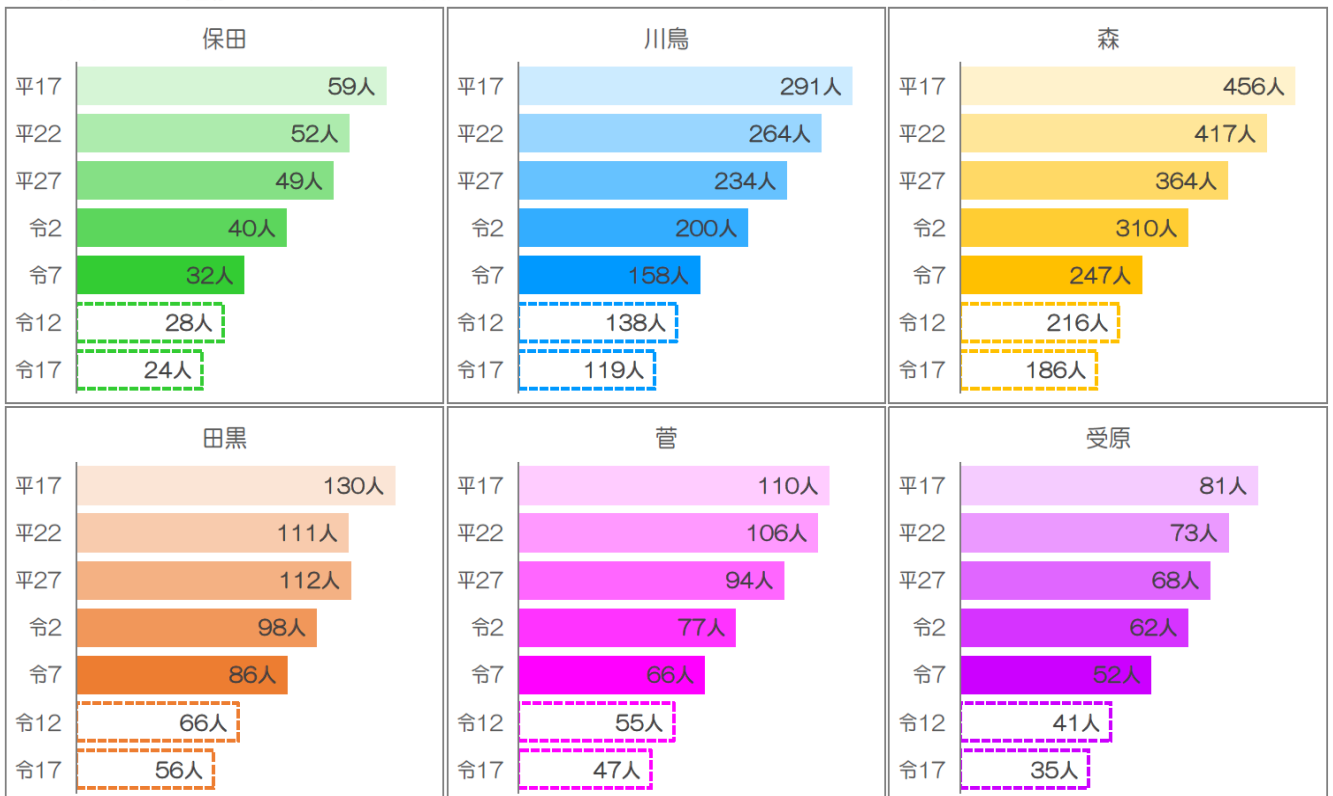
■年齢（4区分）別 (各年3月末現在)



■左の人口割合 (各年3月末現在)



◆住所別の人口推移 (各年3月末現在)

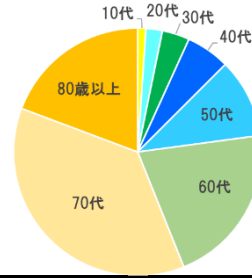


[参考資料] 住民アンケート 集計・分析の概要 (要約版)

令和7年6～7月実施・中学生以上対象

① 回答者の特徴

- 回答者 285人 (対象者 約600人の半数近く)
- 高齢層が中心 (60代以上 約75%)
 - ★ 集計結果に、高齢者の視点が強く反映

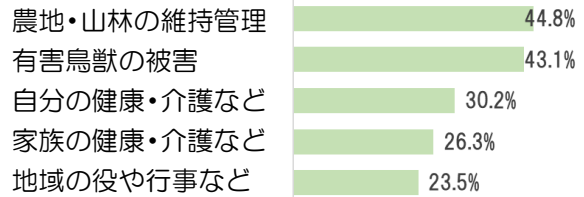


② 全体的な特徴

主な生活課題

- 農地、山林管理 (草刈り)
- 有害鳥獣の被害
- 健康、介護の不安

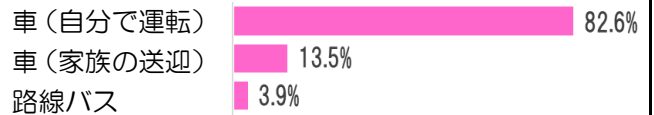
■ 日常生活の不安 (トップ5)



生活の前提

- 【移動】 自家用車依存が極めて高い
- 【情報】 紙媒体中心 (ネット利用1割未満)

■ 移動の手段 (トップ3)



地域活動

- 「関心はあるが積極的でない」が約半数
 - **参加しやすい仕組みが不足**

■ 地域活動への参加状況 (トップ3)



自由意見の傾向

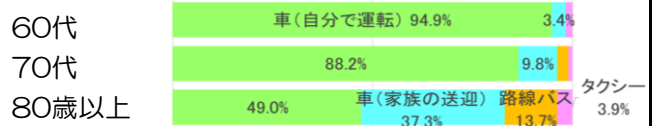
- 「不安」「人が減る」「無理のない形」「助け合い」 → **持続性・現実性重視**

③ 属性別の主な傾向 (要約)

高齢層

- 「自分で運転」 ▶ 「家族の送迎」等へ移行
 - **移動支援が必須**

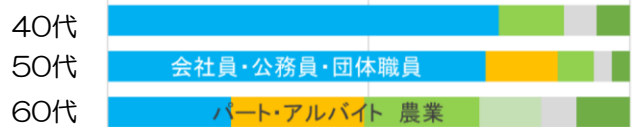
■ 移動の手段 (年代別の割合)



中年層 (40～50代)

- 仕事、家庭+地域の役 = 【負担】
 - **負担軽減がカギ**

■ 主な仕事 (40～60代)



若年層

- 防災、子育てを重視
- 短時間参加のニーズ

■ 日常生活の不安 (10～30代・トップ5)



性別での傾向

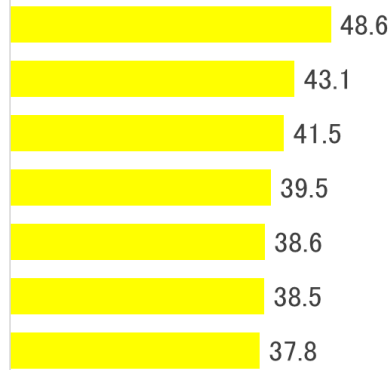
- 【男性】 地域運営、土地の管理に関する課題意識
- 【女性】 生活不安 (健康や移動) に関する課題意識

④ 地域活動・事業に対する評価

改善を優先すべきこと

- ・ 有害鳥獣対策
- ・ 農地、山林の維持管理（草刈り等）
- ・ 空き家・遊休施設の活用
- ・ 防犯（見回り等）
- ・ 子育て支援
- ・ 移動支援（買い物・通院等）
- ・ 防災（避難訓練・研修等）

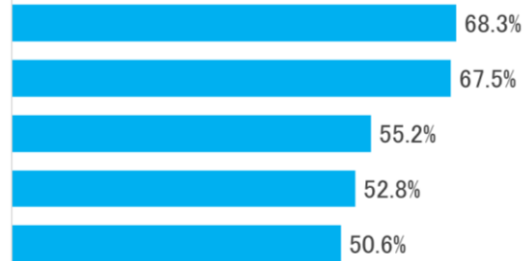
☆重要度は高いが、満足度が低い（差が大きい）



維持すべき強み

- ・ 情報提供（振興区報・行政文書等）
- ・ 美化、環境保全（クリーン作戦等）
- ・ 伝統文化、祭事
- ・ スポーツ行事（大運動会等）
- ・ 季節イベント（盆まつり、収穫祭等）

☆満足度が高い

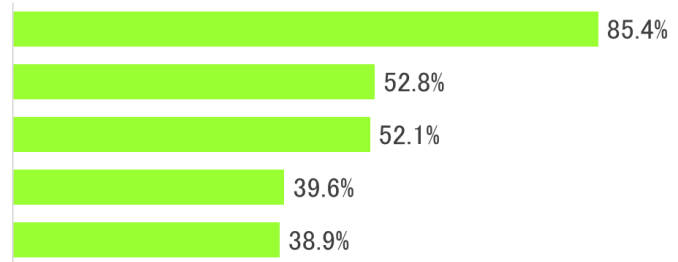


協力の可能性

◎協力を得やすい活動

- ・ 美化・環境保全
- ・ 伝統文化の継承
- ・ 防災活動
- ・ スポーツ行事
- ・ 季節イベント（盆まつり、収穫祭等）

☆協力の意向が高い



◎協力を得にくい活動

- ・ 空き家、遊休施設の活用
- ・ Uターン、定住促進

☆協力の意向が低い

